

送り火の伝統映像に

北区の作家「妙法」題材に制作

準備から本番まで密着撮影



火床が燃え上がる瞬間の映像を見る富楽明美さんと山田博久さん(京都市中京区・映像喫茶京都)

今夏の五山送り火「妙法」の準備から本番までを丁寧にと追った記録映像「受け継がれる灯火」を、京都市北区の映像作家富楽明美さん(48)が制作した。地元の松ヶ崎妙法保存会(左京区)に密着し、火床の組み立てや夜空に立ち上がる炎を間近で撮影した。自身が営む中京区の喫茶店「映像喫茶京都」で上映している。映像は約50分間で、7月上旬から8月16日の送り火当日までの同保存会の活動を追った。若男女が西山と東山に登り、マツの割り木を運んで火床を組み立てる準備風景や、当日午後8時10分に「点火!点火!点火!」の掛け声とともに一斉に炎が夜空を焦がし、人々が火の間近で念仏を唱える姿などをとらえた。

次世代継承にも一役

また、送り火の前日と当日に行われる「題目踊り」も撮影した。鎌倉時代から伝わる日本最古の盆踊りとされ、大人から子どもに昔ながらの太鼓のたたき方を伝える練習風景や、「妙法」と書いた揃いの浴衣姿で踊る住民たちを映した。

保存会役員で、映像喫茶の常連客でもある山田博久さん(66)が富楽さんに制作を依頼した。富楽さんは中京の喫茶で上映

「送り火に携わる多くの人々の努力が伝わると思う」、山田さんは「準備の様子まで細かく記録した映像は初めて。若い人に送り火を伝承する手助けになる」と期待を込めて話している。

中京区夷川通油小路西入ルの「映像喫茶 京都」で随時上映している。火曜定休。(中塩路良平)